平成２９年度大阪府立刀根山支援学校　学校教育自己診断アンケートの結果考察　資料３

はじめに

１　アンケートは児童生徒、保護者、病院関係者、教員を対象に９月～１０月に実施した。
診断項目に対する回答は、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：全くあてはまらない」とした。

２　診断項目及び集計方法等は、基本的に前回調査（２８年度）を踏襲した。
集計にあたっては、肯定的な回答をA＋B、否定的な回答をC+D、無回答に分類し、前回結果との比較及び結果の顕在化のため、肯定的な回答が８０%以上と、否定的な回答が３０%以上を網掛けで示した。なお、前回結果と変化が大きかったものを変化トータルで示し、３０%以上を網掛けとした。前回結果との比較では、前回と共通の診断項目といじめ項目を追加し（児童生徒：１４項目、保護者：２１項目、病院関係者：１１項目、教職員：３４項目）対象を考察した。

児童生徒アンケートの結果

○　昨年度との比較では、〔A＋B〕の割合が９%減少し６８%に、〔C＋D〕の割合が２%減少し１５%であった。全般的にみると児童生徒からのアンケート評価は高い。

○　「学校に行くのは楽しい」「先生は、わたしががんばったことを認めてくれる」の２項目は、「よくあてはまる」だけで６０%を超えている。先生への信頼が厚く、学校を楽しみにしている児童生徒が多い。

○　課題としては、「将来の生き方について考える機会がある」「地震や火災等がおこった時どのようにな行動をとればよいかわかりやすく知らせている」「近くの学校や地域の人々との交流は、楽しい」「先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の４つの項目については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が３７%、５１%、１４%、２６%と低く、キャリア教育・防災教育・交流教育・道徳、人権教育のさらなる推進が必要とされる。

保護者アンケートの結果

○　全体的には、〔A＋B〕と〔C＋D〕の割合は昨年とほぼ同じである。
〔A＋B〕が、８０%以上ある項目が９項目あり、学校運営に関しては、保護者の満足度は高いと考えられる。

○　「授業参観や懇談の機会」「学校と保護者の災害等への対処の共有化」「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の３項目については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計がいずれも40%台であり、何らかの取り組みが必要となる。

○　「進路指導の充実」「ＰＴＡ活動の充実」「学校と保護者の災害等への対処の共有化」「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」については、無回答の割合が５０%以上ある。

今後もホームページでの情報提供しＰＴＡ活動を認知してもらう。すでにスマホの HP 版をアップしているので、情報提供に役立てたい。

○ 医療の進歩に伴う入院期間が短期化により、在籍期間も短期化しているので、ＰＴＡ活動・キャリア教育・防災教育・道徳、人権教育など特定の教育活動については、認知されない保護者が増加している。

○ 昨年度、肯定的な回答が減少した「授業内容の工夫」「家庭への連絡、意思疎通」の項目は、肯定的な回答が弱かん増えた。病室や狭い分教室での学習であるが、保護者の授業に対する期待は高い。授業内容・授業方法については情報機器を使用するなどさらなる工夫が望まれる。

病院関係者アンケートの結果

○ 昨年度との比較では、〔Ａ＋Ｂ〕の割合、〔Ｃ＋Ｄ〕の割合は昨年とほぼ同じである。

○ １１項目中８項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が 70%を超えている。今年度当初より医教連絡に重点を置いて運営してきたことが病院の理解を得ている。「教育の効果が治療や入院生活にあらわれている」の項目については、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の合計が 66%とやや低く、引き続き医療と教育の意思疎通や情報共有の場を大切にしていきたい。

○ 「学校は夏休み中の活動もよく取り組んでいる」の肯定的な回答は昨年度と同じで、全般的には夏休み中の教育活動が評価されている。

教職員アンケートの結果

○ 全体的には、〔Ａ＋Ｂ〕と〔Ｃ＋Ｄ〕の割合は７２％と２６％昨年より６％減少と９％増加している。

肯定変化１０％以上が１項目ある。否定変化１０％以上は１６項目ある。

○ 「部会は有効に機能している」が、〔A＋B〕が１０％増加した。６部署を横断しての取り組みは評価されてきた。一方で、「各校務分掌や各委員会は有効に機能している」の〔A＋B〕が２０％減少した。各校務分掌内や各委員会での、会議のあり方・方法などを見直す必要がある分掌や委員会がでてきている。

○ 「刀根山支援学校には、児童生徒や保護者などのニーズに合った他の学校にはない特色がある」について、〔A＋B〕が９７％あり。ニーズに合った他の学校にはない特色がある学校として、多くの先生方と共有できている。

全体のまとめ

項目数	否定的回答（30%以上） H27	→H28	→H29	肯定的回答（80%以上） H27	→H28	→H29	無回答 H28 増加	→H29 減少
児童生徒結果	1	2	1	8	7	3	－1	1
保護者結果	0	0	0	7	9	9	－1	1
病院結果	1	0	0	4	4	4	0	1
教員結果	3	5	12	１６	１７	１３	－2	0
	5	7	13	35	37	29	4	3

○ 上記の表は、平成 27 年度からの３年間の肯定的回答（80%以上）、否定的回答（30%以上）、無回答（増減 10%以上）の項目数を対象別に一覧にしたものであり、アンケート結果を総括的にとらえ、全般的な傾向を見る参考とした。

○ 今回を含め過去３回のアンケート全体を通して、否定的回答（Ｃ＋Ｄ）は今年度増加し（7 項目→13 項目へ）、肯定的回答（Ａ＋Ｂ）は、８項目減少した。
無回答（増減 10%以上）については、児童生徒、保護者、病院関係者、については、すべて増加した。児童生徒については、昨年度に無回答の割合が 50%以上の項目はなかったが、今年度は無回答の割合が２項目(⑬⑭)で 50%以上あった。児童生徒質問項目は 14 項目（本校除外なし）であるが、６部署において掲載した項目はそれぞれ違い、10 項目（訪問教育部は、項目②⑪⑫⑬除く）から 12 項目（阪大、滝井、枚方は、項目⑪⑬除く）13 項目（中宮は、項目⑬除く）である。訪問教育部は院内学級がない病院に週３回の学習を行っているが、他の分教室のように特別活動、学校行事などが行えない状況であるので、４項目の質問を予め除外している。

○ 経年変化を全般的にとらえると、児童生徒については、肯定的な評価が減少したが、保護者については一定の高い評価を得ている。病院関係については、この３年間で肯定的な評価は横ばいである。前述した児童生徒、保護者、病院関係者、教職員の課題点を次年度の重点的な改善策として具体的な検討が求められる。評価の高い項目については、さらに充実に向けた取組みを進めたい。